

校訓

○健康な体

○豊かな心

○たゆまぬ学習

第三中学校だより

学校教育目標 **気づき・考え・挑戦する** ～新時代を生きる力を創造する～

令和8年2月13日発行

「黄鶯睨皖」

鈴木冬樹



1月8日に3学期がスタートしました。生徒の皆さんは、冬休み明けで、生活リズムが戻るのまで大変だったようですが、頑張っている様子でした。ふと気が付けば2月になりました。1月はあっという間に「行って」しまったような気がします。1月の学校だよりで、2月は「逃げる」と例えました。時間を大切に、計画的に物事を進めることが大事だと、改めて気が付かされています。実際は、1月から寒波が週ごとに到来し、まだまだ寒い時期が続きます。感染症もまた、流行の兆しがあります。3年生は受験を控えている大事な時期です。風邪などひかないように、規則正しい生活を心がけ、万全の状態で受験を迎えてほしいと思います。



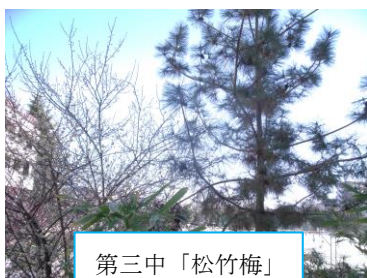
さて、2月4日は立春でした。「立春」は暦の上では「春」とされています。大寒から立春までが一番寒いとされ、立春を過ぎると少しずつ暖かくなるといわれます。春の気配が少しずつ感じられるようになります。暖かな日差しの下、本校の梅の木もつぼみを付け、開花の準備も進んでいるようです。私たちには気づくことができませんが、地中の中は既に春なのかもしれません。

「立春」のような二十四節気をさらに細分化した言い方が、「七十二候」という言葉です。「七十二候」では、立春の時は、「東風解冻(はるかぜこおりをとく)」、「黄鶯睨皖(うぐいすなく)」、「魚上氷(うおこおりをいずる)」となります。「東風が厚い氷を解かし始める」、「冬籠りの虫が動き始める」、「割れた氷の間から魚が飛び出る」との意味だそうです。卒業、進級に向けて、まさに動き出す時期でもあります。厳しい寒さを乗り越えてきたからこそ、春の暖かさが身に染みるはずです。人間は、誰も悩みを抱えながら生きています。悩みの無い人間はいないと言われています。大変な時こそ、一人で抱え込まずに周りに相談し、解決を図ることが大切です。学校でも、みんなで助け合って過ごすことができるよう、支援をしてみたいです。

他に、「縁起物」と呼ばれるものがあります。「縁起」という言葉は、仏教用語の「因縁生起(いんねんしょうき)」に由来していると言われています。意味は、「すべての物事は、原因と理由が互に関係しあって成り立っている」という仏教の教えだそうです。縁起物には、誰もが頼りたいと思うと思いますし、「神頼み」という言葉もよく聞きます。例えば、鶴や亀、招き猫やだるま、富士山や羽子板、お守りなどがあります。意味は省略しますが、いずれも皆さんがよく知ってものかと思います。縁起の良い言葉もあります。「五色雲」や「松竹梅」、「一陽来復」や「大願成就」などです。なお、「松竹梅」は本校職員玄関前に植えられています。他に、「陰徳あれば陽報あり(人に知られず良い行いをすれば、後に報われること)」などもあります。心を育てるという価値を育成する特別の教科道徳での授業にも通じるものがあるかもしれません。これらの言葉は、「座右の銘」として使われることもあります。ぜひ、「教訓」となる言葉をご家庭でもお子さんと話してみてください。この言葉が、あるいは、小さな目標になるかもしれません。



第66回埼玉県小中学校児童生徒美術展北足立南地区展



第三中「松竹梅」



第三中「読み聞かせ」